

# 株主通信

【第80期 決算のご報告】

2009年4月 1日～2010年3月31日

全社員の力を結集し、さらなる飛躍に向けて邁進してまいります。



代表取締役社長 藤森 明彦

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、日頃は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

第80期(2009年4月1日から2010年3月31日まで)の決算のご報告にあたり、ご挨拶申し上げます。

当期は、一昨年の世界的金融不安に端を発した景気低迷により、まさにマイナスからのスタートとなりました。当社の96年の歴史を紐解いても、これほどの厳しい環境に置かれた経験はなかったと思います。この難局を乗り越えるために、当社グループでは『筋肉質』な経営体質への変革と「将来の成長に向けた施策の強化」を重点施策として推進いたしました。

『筋肉質』な経営体質への変革のために、受注から出荷に至る全工程を対象として、生産効率を改善すべくプロセスの見直しを徹底し、長期在庫等のたな卸資産を大幅に削減しました。また、将来の成長に向けて新たな成長領域を生み出していく狙いのもと、市場のニーズに効率的かつ迅速に対処できる組織への改編や、部門間コミュニケーションの活性化を図るための本社1フロア化など、環境の整備を行いました。さら

に、医薬品・医療器具向け包装材や点滴等に使用される輸液バッグなどの生産拠点開設を見据えた用地取得や、成長を続ける液晶ディスプレイ市場に対応するLCD(液晶ディスプレイ)用マスキングフィルムの広幅塗工機導入など、競争優位性を確立するための戦略的投資を決定いたしました。

当期は、未曾有の環境に置かれたことで、全社員の力を結集して立ち向かうという機運が生まれ、今後の飛躍に繋がる土台を築くことができました。次にそれらの成果についてご報告させていただきます。



来春、三重県名張市滝之原に開設予定のヘルスケア新工場(最終完成イメージ)

■ 当期の業績について

機能材料部門の売上回復と、生産性の改善・経営効率向上の結果、黒字回復を果たしました。

2009年度の国内経済は、企業は依然として不稼働設備や過剰雇用を抱え、設備投資や雇用が明確に持ち直すには至っていないものの、海外経済の穏やかな回復を背景とした輸出の伸びとエコポイントなどの耐久財購入支援策に下支えされた消費の増加によって、景気は徐々に回復する展開となりました。

このような環境のもと、当社グループの化成事業の売上高は、包装・容器他の部門では受注が減少したものの、機能材料部門の売上が前年実績を大きく上回った結果、前期比で増加しました。一方、建築資材他の事業では土木関連等の受注が振るわず、売上高は前期比で減少となりました。

損益面では、機能材料部門における売上回復に伴って採算が改善したこと、また、グループ全体の生産効率を向上させるとともに、減価償却費の減少(前期比11億44百万円減)に加え、経費等の固定費削減に努めたことなどから、前期比で増益となりました。

その結果、当期における連結業績は、売上高736億23百万円(前期比2.0%減)、営業利益35億1百万円(前期は12億48百万円の営業損失)、経常利益36億20百万円(前期は10億49百万円の経常損失)、当期純利益21億40百万円(前期は15億53百万円の当期純損失)となりました。

|       |            |
|-------|------------|
| 売上高   | 73,623 百万円 |
| 営業利益  | 3,501 百万円  |
| 経常利益  | 3,620 百万円  |
| 当期純利益 | 2,140 百万円  |

2010年3月期決算サマリー

機能材料部門など付加価値の高い製品を主とした売上回復

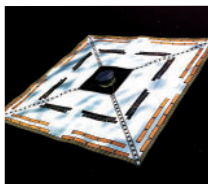
生産効率向上による限界利益率の改善およびコスト削減による増益

利益剰余金の増加などにより純資産の積み上げを着実に実施

### ■ 情報電子・ライフサイエンス分野での取り組みについて

不断の事業構造変革とともに、先進的な技術を具現化した製品の開発に努めました。

前年度後半から続いた厳しい受注環境の中で、2009年度初頭は当社主力製品のLCD用マスキングフィルムや情報記録用材等も受注が激減していました。そのような環境のもと、当社は市場変化へ柔軟に対応すべく剥離紙事業からの撤退など事業構造の変革を断行し、縮小する市場の中でも高い収益を得られる体質への改善を図りました。その後、受注も回復し、業績は大幅に好転いたしました。これも事業撤退・縮小の判断をタイムリーに行ったことと、経営資源を適切に配分すべく事業構造の変革を進めたことの成果と考えております。



ソーラーセイル「IKAROS」イメーჯ (C) JAXA

一方で、新技術開発への挑戦は縮小させることなく継続しています。その一例として、JAXA(宇宙航空研究開発機構)と共同開発し当社が製膜した薄膜ポリイミドを使用したソーラーセイル実証機「IKAROS」が2010年5月21日に種子島宇宙センターから打ち上げられました。ソーラーセイルは超薄膜の帆を広げ太陽

光圧を受けて進む宇宙船で、帆の一部に張り付けた薄膜の太陽電池で大電力発電も行います。帆のみでの宇宙空間航行および薄膜太陽電池発電の世界初の実証を目指しており、その結果によっては、当社のポリイミドが日本だけでなく米国・欧州でのソーラーセイルミッションや、宇宙太陽光発電の部材として使用される可能性もあり、今後の展開が楽しみな技術の1つです。

また、ライフサイエンス分野では、鹿児島大学医学部と共同で開発を進めてまいりました血栓観測システム「T-TAS」を、2010年4月に発売いたしました。T-TASは、心筋梗塞や脳梗塞などの血栓性疾患における血栓形成の複合的な解析ができ、血栓症の予知や適正な薬剤治療のための情報収集が可能なることから、人々の健康維持のお役に立てるものと期待しております。



T-TAS: Total Thrombus-formation Analyzing System

### ■ 環境・エネルギー分野での取り組みについて

競争優位性の高い製品により、環境・エネルギー分野における多様なニーズにお応えしています。

景気が低迷する中であっても、環境・エネルギー分野関連の市場には高い成長性と可能性が存在します。しかしながら、そこで存在感を示すには、独自性や他社との差別化が不可欠です。

今や詰め替え用パウチの代表的存在となり、日常生活に浸透している当社の「フローパック®シリーズ」は、洗剤やシャンプーといった既存市場にとどまらず、新たな市場へ向けた新製品開発を進めています。例えば、化粧水や乳液等の詰め替え用パウチを発売したいというニーズに対し、口径の小さな化粧品用ボトルにも従来の使い勝手を損なうことなく詰め替えられる「フローパック®NT-50」を開発・発売いたしました。細いストローを使用することで注ぎやすさを確保し、化粧品材料の重要なニーズである意匠性にも配慮したことで、従来から好評をいただいている異形状クロージャーパウチとともに粧業向け詰め替え用パウチの決定版として受注が増加しております。

また、次世代ディスプレイとして注目され、今後も高成長が続くと予測される電子ペーパーの色補正粘着シートとして、当

社の光学フィルム「マスタック®TR」が採用となり、2010年8月より量産化を予定しております。この電子ペーパーではフルカラーが実現し、教育、医療、交通機関などの市場で、電子書籍、教科書、電子広告、医療情報名札等さまざまな用途において注目を集めております。

この他にも、電気自動車などへの搭載が始まっているリチウムイオン電池向けの外装袋やタブ材の開発など、当社グループの強みである粘着技術、ラミネート技術などを最大限に活かし、新たな市場のニーズに迅速にお応えしています。



異形状クロージャーパウチ



マスタック®TR

### Daxon社様から品質部門の最優秀表彰を受賞

2009年12月12日、LCD用マスキングフィルムのお客様である台湾のDaxon社様にて、各材料メーカーに対する表彰式が行われました。「品質」「サービス」「サポート」の3部門のうち、当社は品質部門での最優秀表彰を受賞いたしました。今後もニーズに的確にお応えするソリューションを提供し、お客様の高い信頼を獲得してまいります。



表彰を受ける塩見プロテクトフィルム事業部長(写真左)とDaxon蘇州総経理

### フィルムテックジャパンへ出展

2010年4月14~16日に東京ビッグサイトで開催された、FPD(フラットパネルディスプレイ)業界世界最大の展示会「ファインテックジャパン」内「フィルムテックジャパン」展示会にエネルギー関連製品(色素増感型太陽電池/リチウムイオン電池電極)、機能材料製品(高透明両面粘着テープ マスタック®TR)などの製品を出展しました。フィルムに特化した展示会でフィルムのニーズを持ったお客様が多数訪問され、多くの具体的な商談をさせていただきました。



フィルムテックジャパンの様子

### ■ 本社の移転について

有機的な連携・協働を促進するオフィスを目指し、本社を移転しました。

中間期の株主通信にてご報告申し上げましたとおり、2010年3月に本社を東京都中央区から東京都新宿区へと移転いたしました。ここ数年、耐震性やセキュリティなどの安全性、バリアフリーや環境対応などのファシリテ的な機能性の面から、賃貸オフィス市況を勘案しつつ、本社オフィス移転の可否を検討してまいりました。昨年、オフィス市況が移転に好条件となったことに伴い検討を本格化させ、組織間コミュニケーションの活性化を図るための1フロア化(以前は4フロア)、コストダウン、業務効率化が実現できるビルとして、新宿ファーストウエストに決定いたしました。

思い返してみますと、戦後、日本橋に本社を置いて以来、当社は初めて活動の拠点を日本橋から新たな地へ移したことになります。そこでこの機会を、次の100年に向けてより良い会社を社員自らの手でつくり上げる第一歩とし、スムーズかつ実効性のある移転とするため、社内に移転プロジェクト

を立ち上げて、「NEXT100」というスローガンのもと、取り組みました。おかげさまで、移転作業は大変スムーズに進行し、目的とした有機的な連携・協働を促進するオフィスとして早期に効果を発揮できるものと期待しております。



活発な議論を促進するコラボレーションエリア

注目製品や歴代の製品を展示するショールーム

### 効率的なワンフロアとセキュリティを兼ね備えた新オフィス

#### point 1

セキュリティ強化として、エリア分けを明確化

来客エリア(部外者立ち入り可能区域)と執務エリア(部外者立ち入り禁止区域)にエリアを明確に分け、セキュリティを強化しています。

#### point 2

非接触型ICカードによるビル・オフィス入室管理システム

執務エリア入口のドアには、非接触型ICカードによる入室管理システムを設置。本社勤務者はビルのセキュリティカードと社員証を重ねて携帯しています。

#### point 3

レイアウト変更に伴う経費・労力削減のため、什器の規格を統一

机、椅子、キャビネット等の規格を統一。組織変更にも柔軟な対応が可能となりました。

#### point 4

スペース効率向上のため複合機を全面導入

各部門/フロア毎に使用していたコピー機・プリンタ・FAX・スキャナを全面廃止し、これらの機能を1台に集約した複合機を導入。スペース効率と業務効率を向上させました。

### ■ 株主の皆様へ

市場の変化に柔軟に対応し、さらなる業績の向上に取り組んでまいります。

今後の日本経済については、引続き外需主導により穏やかな回復基調をたどるものと予想されますが、欧州の財政悪化懸念、資源価格上昇等の不安材料もあり、依然として予断を許さぬ状況が続くものと思われます。当社グループ関連業界においては、薄型テレビ等の需要は好調に展開しておりますが、一般的な回復にはさらに時間を要するものと思われます。

当社グループは、市場環境の好転に歩をゆるめることなく、来期も引き続き全部門にわたり一層の生産性改善、資材調達の合理化を徹底するなど、採算性の向上に注力しつつ、グループ丸となって市場の変化に対応し、将来の軸となる新製品、他社には真似のできない技術を創出することで、業績の向上に取り組んでまいります。

同時に、当社グループを支えていただいている株主の皆様に対しましては、そのご支援に報いるために利益還元と株主資本利益率の向上を最重要課題の一つと位置付け、配当性向・株主資本配当率等を勘案して、安定的かつ継続的な配当を実

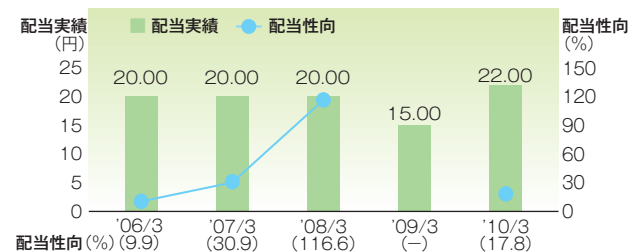
行してまいります。当期の期末配当金につきましては、通期の業績回復等を勘案して、中間配当金10円に対し1株につき2円増額の12円とし、年間配当金は前期より7円増額の1株当たり22円とさせていただきます。

株主の皆様におかれましては、引き続き当社の経営方針ならびに経営施策へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2010年6月



### ■ これまでの配当実績・配当性向(連結)



### 株主優待制度のご案内

当社では、3月31日現在の株主名簿に記載された1単元(100株)以上保有の株主の皆様へ優待品を贈呈しております。贈呈時期は6月です。



「ビゼットちゃん」は2004年、当社創立90周年を記念して社内公募で選ばれた当社マスコットキャラクターです。

2011年4月、成長を続けるLCD(液晶ディスプレイ)市場に対応するため、35億円を投じて昭和事業所に広幅粘着コーターを導入することといたしました。その背景や今後の展望について、塩見プロテクトフィルム事業部長に聞きました。



執行役員  
プロテクトフィルム事業部長  
塩見 公彦

**Q** まず、昭和事業所に導入される広幅粘着コーターとはどのようなものですか。

A. 日本でのエコポイント制度、中国での補助制度等、各国の経済刺激策が功を奏し、液晶テレビやミニノートパソコン等の販売が好調に推移しています。これらの電子機器に使用されているLCDの主要部材である偏光板の製造プロセスにおいて、偏光板の傷や破損を防ぐために貼られる保護フィルムがLCD用マスキングフィルムです。今回導入するのは、このLCD用マスキングフィルムを生産する最新の設備です。

**LCD用マスキングフィルムの特長**

- ハイクリーン環境下(塗工部クラス100)で製造しているため、異物が非常に少ない。
- 被着体への汚染が少ない。
- 透明性が高く、貼合したまま検査工程を通すことができる。
- 被着体に貼合したあとの接着力の経時変化がほとんどない。
- 帯電防止機能・防汚機能があり、なおかつ印字性も付与されている。

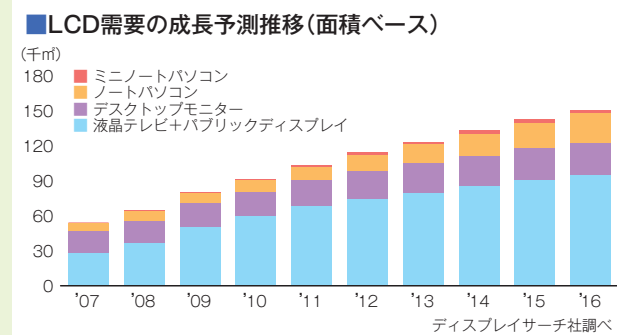
**Q** 導入の背景は何ですか。

A. LCD用マスキングフィルムには、LCD画面の大型化に伴う広幅化への対応とコストダウンが求められています。現在、この用途における当社のLCD用マスキングフィルムの世界的なシェアは約33%でトップシェアを占めていますが、我々はより安心してご使用いただける製品を提供するだけでなく、お客様への付加価値向上となる取り組みを最重要課題として

グローバルな事業展開を行っております。そこで、約35億円を投じ、昭和事業所に新規建屋を建設して2000mm幅強の設備を導入することといたしました。この設備は、2011年4月の量産稼働を目指しています。

**Q** 今後の展望をお聞かせください。

A. LCDの需要は、2016年には面積ベースで2009年度の約2倍になるといわれています。それに伴い、LCD用マスキングフィルムも需要増が見込まれます。今後も、世界規模で厳しいコスト競争が展開される業界ではありますが、当社は、引き続き成長する市場のニーズにお応えしてまいります。



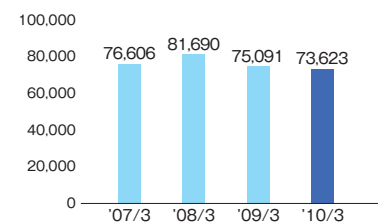
昭和事業所

■ 財務ハイライト

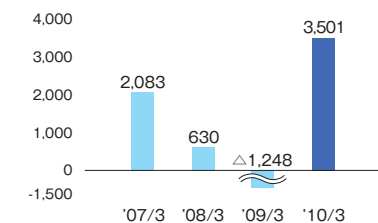
|                   |       | 2006/3 | 2007/3 | 2008/3 | 2009/3 | 2010/3        |
|-------------------|-------|--------|--------|--------|--------|---------------|
| 売上高               | (百万円) | 71,272 | 76,606 | 81,690 | 75,091 | <b>73,623</b> |
| 化成品               | (百万円) | 59,977 | 63,574 | 69,743 | 63,463 | <b>65,561</b> |
| 建築資材他             | (百万円) | 11,294 | 13,032 | 11,947 | 11,627 | <b>8,061</b>  |
| 営業利益又は損失(△)       | (百万円) | 1,699  | 2,083  | 630    | △1,248 | <b>3,501</b>  |
| 化成品               | (百万円) | 1,636  | 1,855  | 581    | △1,669 | <b>3,365</b>  |
| 建築資材他             | (百万円) | 63     | 228    | 49     | 420    | <b>135</b>    |
| 経常利益又は損失(△)       | (百万円) | 1,817  | 2,136  | 693    | △1,049 | <b>3,620</b>  |
| 当期純利益又は損失(△)      | (百万円) | 3,513  | 1,118  | 296    | △1,553 | <b>2,140</b>  |
| 1株当たり当期純利益又は損失(△) | (円)   | 201.22 | 64.68  | 17.15  | △89.82 | <b>123.72</b> |
| 総資産               | (百万円) | 63,676 | 75,726 | 77,438 | 61,978 | <b>67,943</b> |
| 純資産               | (百万円) | 27,879 | 29,146 | 28,983 | 26,133 | <b>28,359</b> |
| 自己資本当期純利益率        | (%)   | 13.5   | 4.0    | 1.0    | △5.8   | <b>8.0</b>    |
| 総資産経常利益率          | (%)   | 2.9    | 3.1    | 0.9    | △1.5   | <b>5.6</b>    |

(注)2007年3月期より「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」等を適用しています。

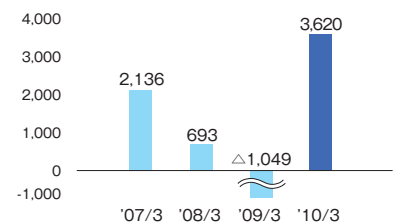
**売上高(百万円)**



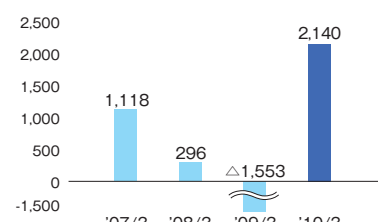
**営業利益又は損失(△)(百万円)**



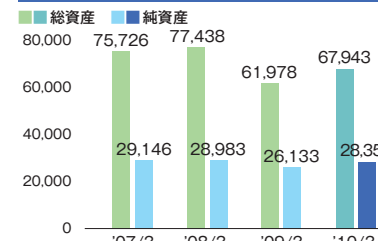
**経常利益又は損失(△)(百万円)**



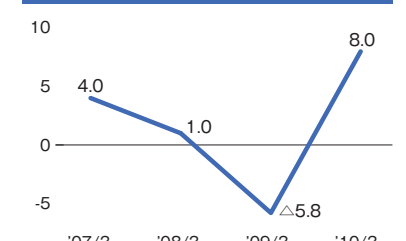
**当期純利益又は損失(△)(百万円)**



**総資産・純資産(百万円)**

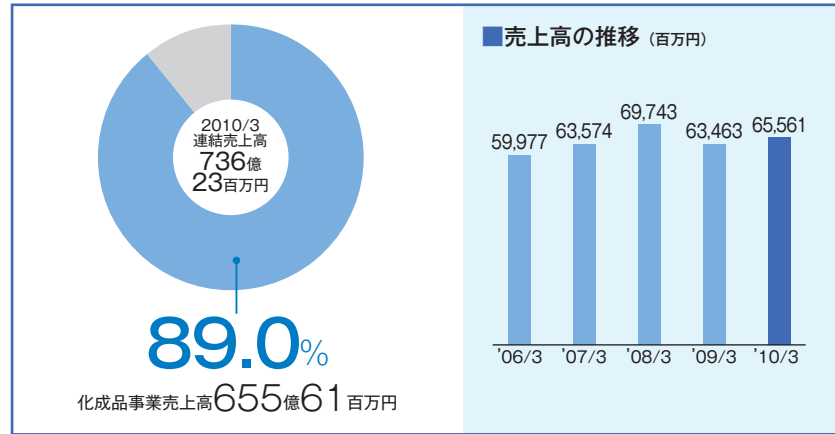


**自己資本当期純利益率(%)**



連結セグメント別概況

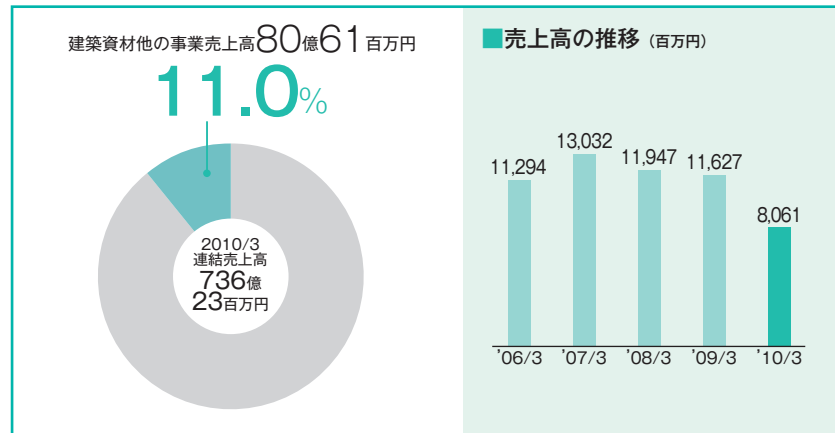
化成品事業



包装・容器他の部門においては、景気低迷に伴う需要減等による受注減少傾向の中、前年度から継続して不採算取引の縮小を推し進めていることなどにより、部門売上は前期比で減少しました。

その一方で機能材料部門では、金融危機以降の景気低迷により、前年度下期において急減したLCD用マスキングフィルム、情報記録用材等の売上が回復したことから、部門売上は前期比で大幅な増加となりました。以上の結果、化成品事業の売上高は655億61百万円(前期比3.3%増)となりました。

建築資材他の事業

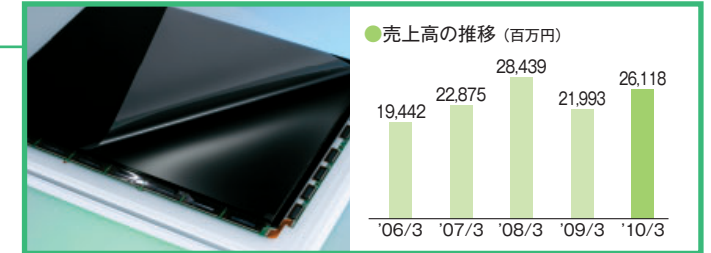


建築資材他の事業では、公共事業見直しの影響等を受けて大型トンネル工事等の土木関連受注が伸び悩み、加えて集合住宅向け製品やビル用煙突の受注減などから前期比で売上が減少した結果、売上高は80億61百万円(前期比30.7%減)となりました。

単体部門別概況

機能材料部門

前年度後半の景気後退に伴い急減したLCD用マスキングフィルム、情報記録用材等の売上が回復し、部門売上は前期比で大幅に増加しました。その結果、当期の売上高は261億18百万円(前期比18.8%増)となりました。



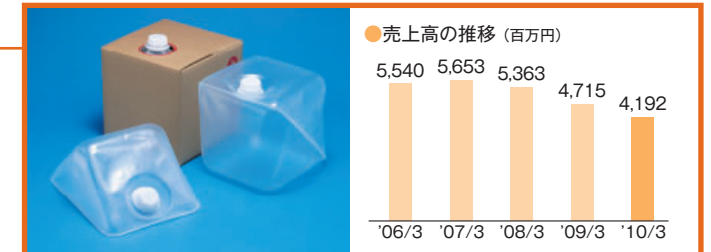
包装部門

医薬包装分野や産業包装分野の詰め替え用スタンディングパウチなどの売上是堅調でしたが、食品包装分野では受注内容の組み替え等により売上減となり、部門売上も前期比で減少となりました。その結果、当期の売上高は261億52百万円(前期比1.7%減)となりました。



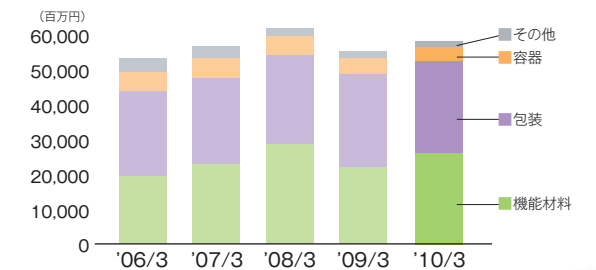
容器部門

前年度からの不採算取引の縮小を推し進めたことなどにより、部門売上は前期比で減少しました。その結果、当期の売上高は41億92百万円(前期比11.1%減)となりました。



■単体部門別売上高推移 (百万円)

| 部門名  | 2006/3 | 2007/3 | 2008/3 | 2009/3 | 2010/3 |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 機能材料 | 19,442 | 22,875 | 28,439 | 21,993 | 26,118 |
| 包装   | 24,319 | 24,847 | 25,804 | 26,606 | 26,152 |
| 容器   | 5,540  | 5,653  | 5,363  | 4,715  | 4,192  |
| その他  | 4,022  | 3,398  | 2,424  | 1,887  | 1,533  |
| 合計   | 53,324 | 56,774 | 62,035 | 55,202 | 57,996 |



# >>> 連結財務諸表

## Consolidated Financial Statements

### ■ 連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

| 科目             | 当期末<br>2010年3月31日現在 | 前期末<br>2009年3月31日現在 |
|----------------|---------------------|---------------------|
| <b>資産の部</b>    |                     |                     |
| 流動資産           | 36,079              | 28,611              |
| 固定資産           | 31,864              | 33,367              |
| 有形固定資産         | 27,928              | 29,457              |
| 無形固定資産         | 281                 | 493                 |
| 投資その他の資産       | 3,653               | 3,415               |
| <b>資産合計</b>    | <b>67,943</b>       | <b>61,978</b>       |
| <b>負債の部</b>    |                     |                     |
| 流動負債           | 22,063              | 17,368              |
| 固定負債           | 17,520              | 18,476              |
| <b>負債合計</b>    | <b>39,584</b>       | <b>35,844</b>       |
| <b>純資産の部</b>   |                     |                     |
| 株主資本           | 27,321              | 25,440              |
| 資本金            | 4,723               | 4,723               |
| 資本剰余金          | 5,778               | 5,778               |
| 利益剰余金          | 16,830              | 14,949              |
| 自己株式           | △10                 | △10                 |
| 評価・換算差額等       | 414                 | 142                 |
| 少数株主持分         | 623                 | 550                 |
| <b>純資産合計</b>   | <b>28,359</b>       | <b>26,133</b>       |
| <b>負債純資産合計</b> | <b>67,943</b>       | <b>61,978</b>       |

### Point.1 総資産について

総資産は、前期末に比べ59億64百万円増加して679億43百万円となりました。これは有形固定資産が償却や除却等により15億28百万円減少した一方で、受取手形及び売掛金が56億84百万円増加したことなどによるものです。

### Point.2 純資産について

純資産は、利益剰余金の増加およびその他有価証券評価差額金等の増加などにより、22億25百万円増加して283億59百万円となりました。また、自己資本比率は前期末の41.3%から40.8%となりました。

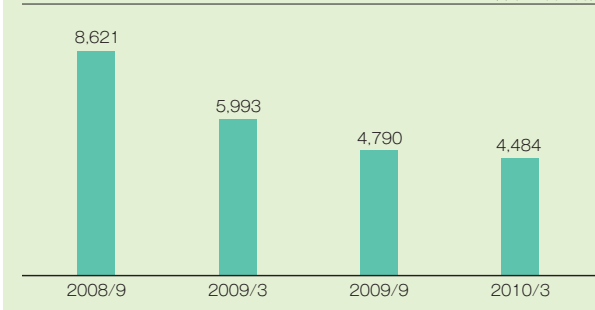
### ■ 財務トピックス

#### たな卸資産がさらに減少しました。

グループを挙げて継続している「必要なときに必要なだけ作り出荷する」という「整流化」の取り組みが功を奏し、長期滞在在庫の削減ならびに在庫を適正水準に保つ意識付けが現場に浸透した結果、たな卸資産が順調に減少し、前期末比で25%の削減を達成しています。

#### たな卸資産の推移

(単位:百万円)



### ■ 連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

| 科目                  | 当 期<br>自 2009年4月 1日<br>至 2010年3月31日 | 前 期<br>自 2008年4月 1日<br>至 2009年3月31日 |
|---------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 売上高                 | 73,623                              | 75,091                              |
| 売上原価                | 60,167                              | 66,522                              |
| 売上総利益               | 13,455                              | 8,568                               |
| 販売費及び一般管理費          | 9,954                               | 9,817                               |
| 営業利益又は損失(△)         | 3,501                               | △1,248                              |
| 営業外収益               | 515                                 | 673                                 |
| 営業外費用               | 395                                 | 474                                 |
| 経常利益又は損失(△)         | 3,620                               | △1,049                              |
| 特別利益                | 112                                 | 36                                  |
| 特別損失                | 328                                 | 1,040                               |
| 税金等調整前当期純利益又は損失(△)  | 3,405                               | △2,054                              |
| 法人税、住民税及び事業税        | 705                                 | 332                                 |
| 法人税等調整額             | 495                                 | △918                                |
| 少数株主利益              | 64                                  | 84                                  |
| <b>当期純利益又は損失(△)</b> | <b>2,140</b>                        | <b>△1,553</b>                       |

### ■ 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

| 科目               | 当 期<br>自 2009年4月 1日<br>至 2010年3月31日 | 前 期<br>自 2008年4月 1日<br>至 2009年3月31日 |
|------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 7,655                               | 7,094                               |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △2,688                              | △2,452                              |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △978                                | △4,246                              |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 14                                  | △138                                |
| 現金及び現金同等物の増加額    | 4,002                               | 256                                 |
| 現金及び現金同等物の期首残高   | 2,007                               | 1,750                               |
| 現金及び現金同等物の期末残高   | 6,009                               | 2,007                               |

### Point.3 当期純利益について

国内景気が徐々に回復傾向にある中、包装・容器他の部門および建築資材他の事業での受注減はありましたが、機能材料部門におけるLCD用マスキングフィルム、情報記録用材等の売上回復に伴い採算性が改善しました。一方、全部門における生産効率の向上や減価償却の減少に加え、経費等の固定費削減等に努めた結果、当期純利益は21億40百万円(前期は15億53百万円の当期純損失)となりました。

### Point.4 営業活動によるキャッシュ・フローについて

営業活動により得られた資金は、76億55百万円(前期は70億94百万円)となりました。これは、売上債権の増加等の資金減少要因があったものの、税金等調整前当期純利益の確保や減価償却費等の資金増加要因があったことによるものであります。

### ■ 連結株主資本等変動計算書

(単位:百万円)

| 当 期<br>自 2009年4月 1日<br>至 2010年3月31日 | 株主資本  |       |        |      |        | 評価・換算差額等         |              |                | 少数株主持分 | 純資産合計  |
|-------------------------------------|-------|-------|--------|------|--------|------------------|--------------|----------------|--------|--------|
|                                     | 資本金   | 資本剰余金 | 利益剰余金  | 自己株式 | 株主資本合計 | その他有価証券<br>評価差額金 | 為替換算<br>調整勘定 | 評価・換算<br>差額等合計 |        |        |
| 2009年3月31日残高                        | 4,723 | 5,778 | 14,949 | △10  | 25,440 | 331              | △189         | 142            | 550    | 26,133 |
| 当期中の変動額                             |       |       |        |      |        |                  |              |                |        |        |
| 剰余金の配当                              |       |       | △259   |      | △259   |                  |              |                |        | △259   |
| 当期純利益                               |       |       | 2,140  |      | 2,140  |                  |              |                |        | 2,140  |
| 自己株式の取得                             |       |       |        | △0   | △0     |                  |              |                |        | △0     |
| 株主資本以外の項目の<br>当期中の変動額(純額)           |       |       |        |      |        | 192              | 80           | 272            | 72     | 344    |
| 当期中の変動額合計                           | -     | -     | 1,880  | △0   | 1,880  | 192              | 80           | 272            | 72     | 2,225  |
| 2010年3月31日残高                        | 4,723 | 5,778 | 16,830 | △10  | 27,321 | 523              | △109         | 414            | 623    | 28,359 |

# >>> 単体財務諸表

Non-Consolidated Financial Statements

## ■ 貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

| 科目           | 当期末          | 前期末          |
|--------------|--------------|--------------|
|              | 2010年3月31日現在 | 2009年3月31日現在 |
| <b>資産の部</b>  |              |              |
| 流動資産         | 29,509       | 22,219       |
| 固定資産         | 29,673       | 31,386       |
| 有形固定資産       | 24,870       | 26,521       |
| 無形固定資産       | 218          | 393          |
| 投資その他の資産     | 4,584        | 4,471        |
| 資産合計         | 59,182       | 53,606       |
| <b>負債の部</b>  |              |              |
| 流動負債         | 18,521       | 13,378       |
| 固定負債         | 15,770       | 17,043       |
| 負債合計         | 34,291       | 30,422       |
| <b>純資産の部</b> |              |              |
| 株主資本         | 24,374       | 22,853       |
| 資本金          | 4,723        | 4,723        |
| 資本剰余金        | 5,778        | 5,778        |
| 利益剰余金        | 13,883       | 12,362       |
| 自己株式         | △10          | △10          |
| 評価・換算差額等     | 516          | 329          |
| 純資産合計        | 24,890       | 23,183       |
| 負債純資産合計      | 59,182       | 53,606       |

## ■ 損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

| 科目              | 当期                           | 前期                           |
|-----------------|------------------------------|------------------------------|
|                 | 自 2009年4月 1日<br>至 2010年3月31日 | 自 2008年4月 1日<br>至 2009年3月31日 |
| 売上高             | 57,996                       | 55,202                       |
| 売上原価            | 48,193                       | 50,688                       |
| 売上総利益           | 9,802                        | 4,514                        |
| 販売費及び一般管理費      | 6,847                        | 6,521                        |
| 営業利益又は損失(△)     | 2,955                        | △2,007                       |
| 営業外収益           | 501                          | 629                          |
| 営業外費用           | 387                          | 489                          |
| 経常利益又は損失(△)     | 3,070                        | △1,867                       |
| 特別利益            | 18                           | 35                           |
| 特別損失            | 303                          | 927                          |
| 税引前当期純利益又は損失(△) | 2,785                        | △2,758                       |
| 法人税、住民税及び事業税    | 540                          | 44                           |
| 法人税等調整額         | 465                          | △1,035                       |
| 当期純利益又は損失(△)    | 1,779                        | △1,767                       |

## ■ 株主資本等変動計算書

(単位:百万円)

| 当 期<br>自 2009年4月 1日<br>至 2010年3月31日 | 株主資本  |       |        |      |        | 評価・換算差額等         |                | 純資産合計  |
|-------------------------------------|-------|-------|--------|------|--------|------------------|----------------|--------|
|                                     | 資本金   | 資本剰余金 | 利益剰余金  | 自己株式 | 株主資本合計 | その他有価証券<br>評価差額金 | 評価・換算<br>差額等合計 |        |
| 2009年3月31日残高                        | 4,723 | 5,778 | 12,362 | △10  | 22,853 | 329              | 329            | 23,183 |
| 当期中の変動額                             |       |       |        |      |        |                  |                |        |
| 剰余金の配当                              |       |       | △259   |      | △259   |                  |                | △259   |
| 当期純利益                               |       |       | 1,779  |      | 1,779  |                  |                | 1,779  |
| 自己株式の取得                             |       |       |        | △0   | △0     |                  |                | △0     |
| 株主資本以外の項目の<br>当期中の変動額(純額)           |       |       |        |      |        | 186              | 186            | 186    |
| 当期中の変動額合計                           | —     | —     | 1,520  | △0   | 1,520  | 186              | 186            | 1,706  |
| 2010年3月31日残高                        | 4,723 | 5,778 | 13,883 | △10  | 24,374 | 516              | 516            | 24,890 |

# >>> 会社概要 / 株式の状況 (2010年3月31日現在)

Corporate Data / Stock Information

## ■ 会社概要

社 名 藤森工業株式会社  
FUJIMORI KOGYO CO.,LTD.  
創 立 1914年(大正3年)4月1日  
設 立 1936年(昭和11年)11月4日  
資 本 金 47億23百万円  
従 業 員 970名(連結1,514名)

(注) いずれも2010年3月末の正社員在籍人員で、決算資料人数とは必ずしも一致しません。

## ■ 役員一覧 (2010年6月23日現在)

代表取締役社長 藤 森 明 彦  
代表取締役副社長 藤 森 伸 彦  
専 務 取 締 役 野 竹 康 夫  
常 務 取 締 役 飯 島 崇 夫  
取 締 役 藤 森 行 彦  
取 締 役 布 山 英 士  
取 締 役 吉 野 彰 志 郎  
常 勤 監 査 役 金 谷 喜 久 次  
監 査 役 上 住 元 彦  
監 査 役 竹 下 直 慶  
監 査 役 井 口 一 二 三

(注) 監査役上住元彦および竹下直慶の両氏は、社外監査役です。

## ■ 当社グループ

### [連結子会社]

- ・フジモリ産業株式会社
- ・フジモリプラケミカル株式会社
- ・まつやセロファン株式会社
- ・THAI FPC CO., LTD.

### [非連結子会社]

- ・MFPC SDN. BHD.
- ・アデコ株式会社
- ・ZACROS(HONG KONG)CO., LTD.

### [関連会社]

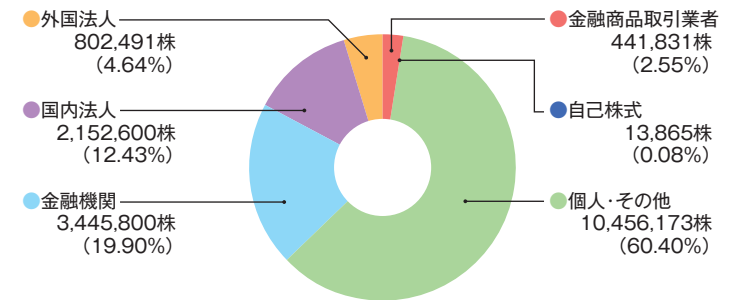
- ・THAI FUJIMORI TRADING CO., LTD.\*

\* 在外関連会社THAI FUJIMORI TRADING CO.,LTD.は、2010年1月14日付をもって解散の決議をしており、2010年度中に清算を完了する予定です。

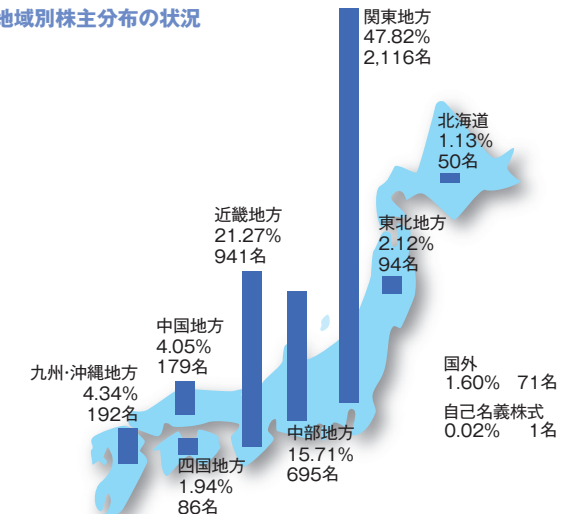
## ■ 株式の状況

発行可能株式総数 .....45,000,000株  
発行済株式総数 .....17,312,760株  
(自己株式13,865株を含む)  
株主数 .....4,425名

### 所有者別株式分布の状況



### 地域別株主分布の状況



## 株主メモ

|                               |  |
|-------------------------------|--|
| 事業年度                          | 4月1日から翌年3月31日まで  |
| 定時株主総会                        | 6月中  |
| 基準日                           | 定時株主総会 3月31日<br>期末配当 3月31日<br>中間配当 9月30日   |
| 単元株式数                         | 100株   |
| 株主名簿管理人                       | 東京都港区芝三丁目33番1号<br>中央三井信託銀行株式会社   |
| 同事務取扱所<br>(郵便物送付先)<br>(電話照会先) | 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号<br>中央三井信託銀行株式会社 証券代行部<br>証券代行事務センター<br>電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル) |
| 同取次窓口                         | 中央三井信託銀行株式会社 全国各支店<br>日本証券代行株式会社 本店および全国各支店  |

### ●株式に関する諸手続について

- (1) 住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について  
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機能である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。  
・フリーダイヤル 0120-87-2031 (24時間受付：自動音声案内)  
・インターネット/ホームページアドレス  
[http://www.chuomitsui.co.jp/person/p\\_06.html](http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html)
- (2) 未払配当金の支払について  
株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

### ●「配当金計算書」について

配当金お支払いの際にご送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主様につきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社等にご確認をお願いします。  
なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主様につきましても、本年より配当金のお支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。確定申告をなされる株主様は大切に保管ください。

## 当社の詳細なIR情報は、 ホームページをご覧ください。



IR情報  
トップページ <http://www.zacros.co.jp/ir/>

藤森工業のホームページの「IR情報」では過去の株主通信や決算短信などの情報を見ることができます。また当社製品の情報や企業情報、研究開発や環境への取り組みなどもご覧いただけます。

## 第7回 株主様アンケート

当社IR(投資家向け広報)活動の充実と今後の参考に資するため、株主の皆様のお声を頂戴いたしたく、アンケートへのご協力をお願い申し上げます。同封のハガキにてご回答をいただき、最寄りのポストへご投函ください。切手は不要となっております。ご協力のほどよろしくお申し上げます。

- Q1** 当社の株式をいつ頃購入されましたか?  
①1年以内 ②~3年前 ③~5年前 ④5年以上前 ⑤株式公開時から
- Q2** 当社の株式を購入された理由をお聞かせください。(複数回答可)  
①安定性 ②将来性 ③経営戦略 ④財務内容 ⑤製品/サービス  
⑥環境活動 ⑦株価 ⑧配当金 ⑨株主優待 ⑩証券会社の勧め  
⑪本人・家族・知人が当社関係者もしくは取引先 ⑫その他
- Q3** 当社株式についての今後の方針をお教えください。  
①当面保持 ②買い増し ③売却 ④その他
- Q4** 株主還元策として何を重視しますか?(複数回答可)  
①安定配当 ②配当性向の向上 ③株式分割 ④株主優待 ⑤その他

- Q5** 株主通信の印象はいかがでしたか?  
①わかりやすい ②ややわかりやすい ③どちらともいえない  
④ややわかりにくい ⑤わかりにくい
- Q6** 興味を持たれた内容はどれでしょうか?(複数回答可)  
①株主の皆様へ ②特集 ③連結財務ハイライト ④セグメント情報  
⑤連結財務諸表 ⑥単体財務諸表
- Q7** 株主通信の内容に限らず、今後どのような情報の充実を希望されますか?(複数回答可)  
①業績 ②経営戦略 ③製品/サービス ④株主還元策  
⑤環境への取り組み ⑥その他

当社に対するご意見・ご要望をお聞かせください。本アンケートは、当社IR活動の参考とすることを目的として行わせていただきます。本アンケートにより取得した個人情報情報は漏洩、毀損のないよう適切に管理し、他の目的への使用や第三者への提供は行いません。

## 藤森工業株式会社

〒160-0023 東京都新宿区西新宿一丁目23番7号 TEL.03-6381-4211 (代表)

